

日本の銑鋼一貫製鉄の始まりと発展

登録番号	第 00214 号		
登録年月日	2016（平成28）年9月13日	登録区分	第二種（単一又は極めて少量生産されたもの）

名称 (型式等)	東田第一高炉
所在地	福岡県北九州市 東田第一高炉史跡広場
所有者 (管理者)	北九州市
製作者 (社)	官営八幡製鉄所
製作年	1962年（第10次改修年）
初出年	1901年（操業開始年）
選定理由	<p>旧官営八幡製鉄所東田第一高炉は、日本の銑鋼一貫製鉄の始まりとして1901（明治34）年に操業を開始した。その技術や設備は、高炉による製銑工程、転炉や平炉での溶鋼・製鋼工程、圧延による鋼材加工工程を備えた近代的な銑鋼一貫設備であった。ドイツからの技術導入による完成後は、日本人技術者の改良や技術開発が行われ、急速に進歩を遂げた。東田第一高炉は、操業時から改修・改良工事を繰り返し、1962（昭和37）年に第10次の改修を受けて、日本初の高压高炉として1972（昭和47）年まで操業を続けた。日本の製鉄技術を記念する遺構として重要である。</p>
登録基準	一ーイ（科学技術の発展の重要な側面及び段階を示すもの）

公開・非公開	非公開
--------	-----

写真	
----	--

その他参考となるべき事項	
--------------	--